

## 事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノバイオ技術による機能性生体材料の創出
研究責任者の所属・氏名	生体材料研究センター 田中 順三
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究分野は発展が期待できるが、競争力のあるグループが多いので、気を引き締めて研究を進めて欲しい。</li> <li>・ 非常に斬新で素晴らしいプロジェクトである。</li> <li>・ 極めて重要な研究である。生体材料研究センター訪問で、研究の質の高さを確認できた。</li> <li>・ これは非常に意欲的なプロジェクトである。研究の副産物である会社を沢山作るべきである。</li> <li>・ 少人数グループでは、国際的に飛躍的發展をもたらすのは極めて困難である。NIMSはこの重要なプロジェクトに対してもっとリソースを集中すべきである。</li> <li>・ 材料の中でも、バイオ材料は応用対象や評価システムを含め、かなり異質な分野と思われる。NIMSの総合力が生かせるテーマに絞り込む必要があるかもしれない。</li> <li>・ 多くのものが提案されたが、すべて行えるとは考えられない。プロジェクトの中身を絞ることを計画書の中ではっきりさせるべきである。</li> <li>・ プロジェクトが開発途上の性格のため、プロジェクトの焦点を絞ったり、研究を同時にではなく時間的に順番をつけて行うのがよいのではないか。</li> <li>・ 提案された研究成果はみんな他の研究室でも開発中である。本プロジェクトではどのような新しいアプローチが用いられるかが明確ではない。</li> </ul>
評価点	A, A-, A, S, S, S, B, A+, N/A, S-
総合評価点※	A

N/A=No Answer

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。